広島大学医学部地域医療システム学講座

平成23年度
報告書

広島大学

広島大学医学部地域医療システム学講座

平成23年度 報告書

CONTENTS

ごあいさつ …… 1

1.活動の概要 …… 6

2.教育 …… 7

3.システム作り／地域医療支援 …… 17

4.研究 …… 19

5.2011年研究業績一覧 …… 22

6.添付資料 …… 24

地域医療実習レポート …… 27

広島大学

ごあいさつ

地域医療システム学講座の今後の発展

広島大学医学部長　吉　栖　正　生

ふるさと枠の学生も新４年生になりました。広島大学医学部地域医療システム学講座が、広島県の強力な御支援を得て発足して２年経ち、この実績報告書にありますように、地域医療教育、地域医療支援そして地域医療に関する研究について着実な成果を挙げております。

なかでも、やる気があって優秀な学生の、ふるさと枠へのリクルート活動は全国的にみても刮目すべき結果を残しています。一般枠の学生のなかに、医学・医療へのモチベーションにやや難があるケースが散見されるなかで、やる気のある学生が高校の推薦を受けて入学してくることは、学生全員にとっても良い影響を与えます。

その学生も来年には臨床研修のローテーションに入り、再来年には最終学年になります。可能であれば、臨床研修ローテーションに入る前に広島県医師育成奨学金（広島大学ふるさと枠）の制度にある「知事が指定する診療科」が決まることを希望しています。

また、結婚などの理由でやむを得ず他府県に異動する希望がある場合、義務年限をどのように対応するか、という宿題があります。基本的には県が方針を決めることになりますが、個人的には、全国的にコンソーシアムのようなものを作り、残りの義務年限を異動先の府県で果たすことが理想的では、と考えています。

地域医療システム学講座では、今後のふるさと枠学生に対する進路相談に役立てるため、広島大学の各診療科に対して、広島県医師育成奨学金の規定する義務内容と両立するキャリアプランの作成をお願い申し上げる方向で準備を進めています。これは、制度の始まった頃にあった「先進的な医療技術の勉強ができないのではないか」、「いわゆる専門医を目指せないのではないか」といった高校生の漠然とした不安を払拭することも大きな目的として作製された案内パンフレットの理念にも適うものです。

ふるさと枠学生が県からいただいた奨学金を活用して充実した勉学に励み、卒業後も決められた義務を果たしながら、専門医、総合医といった道を邁進していく姿を後輩や県内の高校生に見せることで、この制度がますます発展すると考えています。このように地域医療システム学講座の活躍の場は、今後ますます拡がりますので、関係各位の多大なる御支援を賜りたいと存じます。

広島で医者をやるということ

広島県健康福祉局長　佐々木　昌　弘

私が地元の秋田大医学部に入学したのは、今から24年前の昭和の最後の年でした。中学高校と東京に柔道留学していた私は、高３の夏に祖母をがんで失い、ふるさとで医者をやることを決心しました。なお、上京した年の夏の甲子園で準優勝だった広商が、秋田に戻った年の甲子園で優勝したことに、今思えば不思議な縁を感じます。

実際に実家のある横手市と大学の近くの秋田市で内科の医者をやっているうちに、ふるさとの課題を克服するには制度面から取り組んだ方が「自分の性分には」合うのではないかと思うようになり、行政の世界に転じました。それだけに、私にはできなかった臨床医としてふるさとに貢献をするということを、広大の「多くの」皆さんには貫徹して欲しいと切に願ってます。

ものごとには役割分担があるので、研究中心の道もあれば、最先端の治療に心血を注ぐ道もあります。大切なのは、同じ医者として、それぞれの道を歩んだ仲間と切磋琢磨し、励ましあいながら、医学・医療の向上を果たしていくことです。なので、私も皆さんを、行政の道を選んだ者として一生懸命支え、ときには叱咤しながら、広島に社会に貢献していきたいと思っています。

もう一つ大切なのは、医者という profession の道を選んだことに伴う noblesse oblige です（英仏混交ですみません）。高い責任感のもとに、多くの職種や住民を巻き込む力と自覚を持っていただきたいと思います。逆にいえば、私は皆さんにそのようになってもらうような制度や仕組みを考えていきます。このことは、ふるさと枠の皆さんのキャリアパスづくりでも根本的考えです。

私が医学部受験の頃に聞いていた曲は「夢をあきらめないで」、国試受験の頃に聞いていたのは「負けないで」でした。皆さんが広島で医者をやるということについて、夢をあきらめずに、そして負けずにやっていけるよう、一緒に考え実践していきたいと思います。そのためにも、平成24年度はもっと皆さんのところに寄って共に話をしていきたいと思います。

一度だけの人生です。医者としての道を、心から悔いのないよう生き抜きましょう。

講座スタッフあいさつ

地域医療システム学講座　教授　**竹　内　啓　祐**

東日本大震災／原発事故に日本中が打ちのめされた直後から始まった昨年度は、自分たちに何ができるのかをひたすら考えながらも、たいしたことのできないもどかしさも感じながらの一年でした。「絆プロジェクト」や「トモダチ作戦」に代表される人間の善なる部分に気持ちが救われる一方で、自然の畏怖、文明の驕りを再確認し、すべての価値観をもう一度考え直すよう突きつけられた一年でもありました。世界で最も影響力のある100人に選ばれた公立志津川病院の菅野武先生は、どうしようもないジレンマの中で「時に癒し、しばしば支え、常に慰む」という言葉に救われたと自著の冒頭に記されています。医療においてもすばらしい活動やエピソードを見聞きするに付け、医療の原点はかくあるべし、とりわけ地域医療はそうだな、と今更ながら考えさせられました。我々は、これらの教訓をいつまでも忘れない、ということを肝に銘じともに歩み続けたいと思います。

翻って、当地域医療システム学講座に関しては２年目を大過なく終えることができました。実は松本准教授と私は春先に相次いで骨折してしまいました。別に骨折りなことは何一つしていないのですが…、そんな中でも皆さまに支えて頂き無事講座を運営することができました。大変感謝しております。平成23年度の目標は、順調に船出した当講座のミッションを確固たるものに仕上げることでした。一般枠５年生に対する地域医療実習も定着し、協力していただける施設も徐々に増えています。指導者側も学生も実習自体に慣れるとともに評価を得ながらさらに発展してきています。毎週昼食時に開催しているふるさと枠学生に対するセミナー（地域医療研究会）も学生が主体的に運営していくようになってきました。夏季、冬季、春季休暇中に開催するセミナーも新たな試みが順調に運び、さらに充実したプログラムになりつつあります。地域医療に関する研究も松本准教授が中心となって新たに GIS を利用した研究に取り組み成果を収めつつあります。残る大きな課題はふるさと枠学生に対するキャリアプランの作成ですが、それが来年度の目標となっていくことでしょう。

地域医療システム学講座　准教授　**松　本　正　俊**

今年は２年目ということで、昨年度立ち上げた様々な活動が軌道に乗ってきたように感じています。５年生の地域医療実習、３年生、４年生、６年生の講義はだいぶ形になってきつつあり、ふるさと枠学生の教育についても、毎週の研究会、夏、冬、春の実習に加えて、今年度はオーストラリア研修も実施

しました。ふるさと枠の制度が県民に広く認知されるようになったことを肌で感じる機会が多く、その結果か、県内限定の推薦入試としては高い倍率を維持しております。研究においても、国民皆保険制度に関する共同研究の成果や地域枠に関する政策提言がランセット誌に掲載されたのに加え、医師の地理的分布に関する政策研究を論文化し、さらに県内透析患者さんのアクセス格差を分析する共同研究を、各市町、本学公衆衛生学、県立広島病院との連携のもと実施し、来年度論文化の予定です。このように、新しい講座として昨年蒔いた種があちこちで芽吹いた一年でした。来年度はこの芽を大きく育てる一年にできればと思います。お世話になりました皆様にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

地域医療システム学講座　講師　**服　部　文　子**

平成22年度から広島大学医学部の地域医療の臨床実習が開始されました。医学部５年生全員が地域医療の現場を経験する、という地域医療教育としては画期的な試みです。初年度は広島県内の３か所の地域医療拠点病院で学生実習が行われることになりました。私はそのうちのひとつである神石高原町立病院に内科医として勤務していますが、４月から地域医療システム学講座の一員として、同院で実習する学生指導を担当することになりました。

５月末から、12月の第２週目まで、断続的に17週間、計34名の学生が神石高原町にやってきました。当院での実習の内容は概要のとおりですが、訪問看護や訪問診療、介護施設見学、外来診療実習などに加えて、学生に１名ずつ入院患者を担当させ、カルテの作成と共に退院も見据えた今後の方策について考えてもらうことにしました。僻地病院の入院患者のほとんどにあてはまることですが、ADL や認知機能低下により、退院困難をきたしている高齢患者について、疾患だけでなく、ADL や家族・生活も含めて患者を評価し、そのマネージメントを考えることは、最も地域医療実習らしい実習になるだろうと考えました。

学部学生を１週間通して指導することは、私にとっては初めての経験でした。当初は研修医と同じような感覚で、最初に患者さんを紹介するだけにとどめ、後は学生の自主性にまかせていました。一週間のうちに彼らなりになんとか情報をとり、まとめてくるだろうと考えていましたが、学生によっては、それではほとんどこちらが意図する実習にならいないことが判明しました。実習の途中で一人ひとりのレベルを確認しながら、情報収集やカルテ作成を誘導する必要がありました。今さらながら学部教育にたずさわる教官の先生方の御苦労を思い知った１年でした。勤務医としての仕事もあるため、実習期間を通して全ての学生に十分に接することはできませんでしたが、学生達の多くは、各々素晴らしい能力・感受性を持っていました。研修医と同等あるいはそれ以上のカルテを作成し、退院支援プランを作成できた学生もいました。担当患者と密接な関係を作ることができた学生は、患者さんの疾患のみならず、ADL の問題点なども抽出でき、退院の難しさを実感し、親身になって患者さんの悩みや不安を聞き、一緒にため息をついてくれました。

訪問看護や介護施設見学といった地域医療研修ならではの実習は学生達からおおむね好評でした。ほとんどの学生にとって、在宅や施設で介護を受けている患者に接することは、初めてであり、新鮮な経験だったようです。また、その仕事に関わるスタッフの仕事に対するプライドや情熱が学生達の印象に残ったようでした。

実習に際しては、寺岡記念病院の先生方をはじめ、多くのスタッフにご協力いただきました。熱心なご指導をいただき、学生も自分達の実習が多くの人々の協力に支えられていることを感じとっていました。また、学生が来ることにより、現場のスタッフや患者さんにも活気が出ていました。何より私自身が学生からたくさんのことを教えてもらいました。このような機会を与えていただいたことを感謝いたします。

広島大学大学院医歯薬保健学研究院　地域医療教育センター　講師　**宮　地　隆　史**

地域医療システム学講座が開講されて２年が過ぎました。広島大学地域推薦枠（ふるさと枠）入試による医学生は３学年に渡り在籍し、それぞれの学年の特色（個性）がでてきたように思われます。

医学教育の大きな改革として全国的には、平成23年３月に医学教育モデル・コア・カリキュラムが改訂され、「医師として求められる基本的な資質」として、１）医師としての職責、２）患者中心の視点、３）コミュニケーション能力、４）チーム医療、５）総合的診断能力、６）地域医療、があげられました。地域医療については、「医療を巡る社会経済的動向を把握し、地域医療の向上に貢献するとともに、地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力する」ことが求められています。平成22年度より広島大学医学部医学科５年生全員に必修とした「地域医療実習」は２年目を迎え、世羅中央病院の御協力も得られ、安芸太田病院、神石高原町立病院、庄原赤十字病院とともに充実した臨床実習が行われております。看護師と同様の業務を経験する看護実習や診療所実習、往診なども経験する地域医療実習は、正に「医師の資質」を涵養するに相応しい医学教育の場であると確信しております。平成24年度には地域医療実習を経験した医学生が医師として現場で活躍を始めます。地域医療マインドをもった多くの医師がそれぞれの立場で活躍してくれることを期待し、さらにその場を提供できるようにすることも我々の重要な責務と思われます。地域医療教育センターは、平成24年度も地域医療システム学講座をサポートする形で地域医療教育に携わって行きたいと思います。

1. 活動の概要

当講座には３つのミッションがあります。地域医療教育、地域医療支援そして地域医療に関する研究です。

教育に関しては、５年生の臨床実習の一環として実施している地域医療実習の協力施設に公立世羅中央病院に加わっていただき４か所となりました。来年度はみつぎ総合病院にも加わっていただく予定です。様々な負担があるにも関わらずこうしてみなさまから支援していただいていることに大変感謝しております。1施設あたりの負担を軽減するために無制限に協力していただける施設を増やすのではなく、我々も参加しながら緊密に連携を取り、学生たちも充実した地域医療実習ができるような、いわば少数精鋭で教育していくスタンスをとっています。今年度から選択性のアドバンスト地域医療実習の担当も当講座がさせていただくこととなりました。３月には地域医療実習関連施設にご参集いただき、地域医療実習連絡会議を開催いたしました。地域医療実習の FD 版をめざしています。ふるさと枠の学生に対しては、昨年度までは隔週の昼休憩時に集合しざっくばらんな話し合いをしていたのですが、今年度からは、学生の希望により毎週開催する勉強会に変貌しました。医療面接や医療技術を中心に行っていましたが、来年度からは学生たちが主体的に運営する自主グループへと変貌していく予定で、大変頼もしく感じています。彼らに対しては夏季、冬季、春季の長期休暇中の実習を企画しています。夏季の実習は地域医療セミナーと称して自治医大、奨学金受給生や希望学生も交えて実施しております。次第に対象者が増えて行き、いずれは130名程度まで増えることが想定されるため、広島県地域保健医療推進機構（以下、推進機構）の古川先生と相談し新たな方式を導入しました。学生の評価も昨年よりは好評で、当面は今回の方式を踏襲していこうと考えています。

地域医療支援に関しては、時間が許す限り中山間地域の病院の診療支援を行いました。また、平成23年７月には推進機構が設置され、医師派遣調整、支援や人材育成機能が果たせるよう緊密な連携をとりながら協力してきました。今後は推進機構が中心となって地域医療に関する政策的対応が行われていく予定です。また、地域医療の充実のためには今後重要な位置を占める総合診療の普及に関しても、広島大学総合診療科とともに活動させていただいております。

地域医療研究に関しては後述いたしますが、新規には、松本准教授を中心に現在 GIS を利用した研究を開始致しました。今後中山間地域の医療資源の確保に対して理論的裏付けとなる可能性をもった研究になるものと期待しております。

2. 教育

（ア） 5 年生地域医療実習

①概要

昨年度から引き続いて一般医学科生に対してクリニカル・クラークシップの一環として必修の地域医療実習を行いました。今年度は実習施設が 4 か所に増え、5 年生全員が 2 名ずつに別れて庄原赤十字病院、安芸太田病院、神石高原町立病院、公立世羅中央病院のいずれかで 4 泊 5 日の現地泊り込みの実習を行いました。今年は 2 年目ということで大きな混乱もなく、また各病院の受け入れも定着化してきた印象です。各院長先生やスタッフの方々には大変ご尽力いただきました。外来実習、看護体験、診療所見学、在宅訪問、高齢者施設見学、1 次救急、ケアカンファランス等々、文科省のモデル・コア・カリキュラムを参考に、各病院の特徴をだしたプログラムを実行していただきました。各病院には宿泊や食事のご用意もしていただきました。我々スタッフも週 1 回現地に赴き学生教育に携わり、現地の先生方との情報交換に努めました。今後もより充実した実習に発展できるよう、全国の地域医療関連講座と情報交換しながら工夫を重ねていきます。

	月	火	水	木	金
AM	オリエンテーション 外来実習	断酒会	看護実習	診療所実習 吉和、雄鹿原、戸河内	外来実習
PM	認知症病棟 リハビリ 音楽療法 NSTラウンドなど	PM2～5時過ぎ 訪問看護	救急外来など	診療所実習 吉和、雄鹿原、戸河内	総括評価 （発表）
夜	当直（1名）	当直（もう1名）			

図　安芸太田病院の週間スケジュール

②アンケート結果概要

学生へのアンケート調査結果は概して好評でした。ほぼ全員の学生がこの実習により地域医療をよりよく知ることができたと評価し、実習前後で比較すると33%が地域医療に興味が増し、36%が将来地域医療に従事する意向が増加しました（下図）。地域医療へのポジティブなイメージとしては、「全身を診る事」「患者との距離の近さ」「自分が必要とされている事」「地域に出ていく医療」であり、ネガティブなイメージとしては、「最先端の医療ではない事」「専門性が身につかない事」「最先端の医療から離れていること」などでした（下図）。

施設全体
学生から実習施設への評価
4 -非常に有意義-
3 -有意義-
2 -あまり有意義ではない-
1 -有意義でない-
NA -実施なし-
未回答
0%
20%
40%
60%
80%
100%
実習全般について
病院外来実習
病棟実習
診療所外来実習
往診実習
救急実習
各種カンファレンス
健康教育・保健所実習
福祉施設実習
看護実習
実習全体のアレンジ
病院の受け入れ体制
病院の指導体制
地域医療システム学講座の指導体制

実習を受ける前と比べて、地域医療をよりよく知ることができたか
0%
20%
40%
60%
80%
100%
庄原赤十字病院
安芸太田病院
公立世羅中央病院
神石高原町立病院
はい
どちらかというとはい
どちらかというといいえ
いいえ
全体

地域医療に興味を持っているか
持っている
どちらかというと持っている
どちらかというと持っていない
持っていない
未回答
23
50
18
4
35
54
6
21
2
13
37
14
4
1
1
2
（人）
実習前
実習後
全体

将来、地域医療に従事してみたいか
（時期・期間は問わない）
従事してみたい
どちらかというと従事してみたい
どちらかというと従事したくない
従事したくない
未回答
17
48
25
1
4
23
64
8
12
5
10
1
38
19
1
1
6
2
（人）
実習前
実習後
全体

地域医療について特に面白そう、楽しそう、やりがいがありそうとイメージする事柄（複数回答可、無回答も可）
0
20
40
60
80
100
120
（回答数）
患者との距離が近い医療
全身を診る総合的な医療
自分ひとりで何でもやれる医療
田舎暮らし
地域ぐるみの医療
住民が自分を必要としていること
予防医療
福祉施設との連携
行政との連携
在宅医療など地域に出て行く医療
その他
実習前
実習後
全体

地域医療についてネガティブなイメージを持つ事柄（複数回答可、無回答も可）
0
20
40
60
80
100
（回答数）
患者との距離が近い医療
高い専門性を身につけられないこと
自分ひとりで何でもやらないといけないこと
田舎暮らし
地域ぐるみの医療
住民が自分を必要としていること
予防医療
福祉施設との連携
行政との連携
最先端の医療から離れていること
休みが少なさそう
在宅など地域に出て行く医療
その他
未回答
実習前
実習後
全体

（イ）その他の一般学生教育

① 6 年生／ 4 年生講義

平成22年 4 月に 6 年生を対象とした臨床実践学講座において、「こんな人たち地域医療に集合・国試の地域医療問題で満点をとる」というタイトルで、プライマリ・ケア／総合診療／地域医療について、広島県および日本の地域医療の状況、近年の医師国家試験の地域医療分野の傾向と対策の講義を 1 コマ行いました（竹内、松本）。またこの講義中に昨年度の地域医療実習の優秀レポートの表彰を行いました。 4 年生に対しては、臨床実習入門プログラムにおいて、上記と同様の内容、および地域医療実習に関する講義を 2 コマ行いました（竹内、松本）。

② 3 年生器官・システム病態制御学

本年度から 3 年生に対して地域医療の講義を 3 コマ実施しています。竹内は「地域医療」と題して日本国内の地域医療の現状や総合医育成の動きについて、松本は「世界の地域医療」と題して諸外国の地域医療の実情について説明しました。また愛媛大学地域医療学講座の川本龍一教授にお越しいただき愛媛県の地域医療の現状と対策について講義していただきました。

③ 4 年生公衆衛生学実習

平成22年 9 月～10月、公衆衛生学実習の担当講座（公衆衛生学教室と共同）として医学科 4 年生 3 名を受け入れ、研究指導を行いました。学生 3 名は府中北市民病院、JA 府中総合病院、府中市にインタビュー調査を行い、市町村合併に伴う公的病院の存続問題を分析し、提言を行いました。

5．府中北市民病院の視点

160 床（一般 110 床・療養 50 床）
医師数：16 名
診療科目：内科、外科、産婦人科、整形外科、小児科、リハビリテーション科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科

今回のインタビューでは院長以外にも、過去に府中北市民病院に勤務しており現在旧上下町内で医院開業している医師からも話を聞いた。院長も元勤務医も市の政策には反対であり、元勤務医は旧上下町の住民の地域医療を守る会にも参加している。

Ⅰ．地域連結
院長によれば、市は府中北市民病院を旧上下町５．０００人の医療だけを担っていると考えているが、実際、旧上下町付近は重度な医療過疎地であり、旧甲奴郡や旧神石郡などを含む広い圏域の救急医療をカバーしている。長い間これら過疎地で維持されてきた医療が外部からの圧力により破綻しかけている。

Ⅱ．地域のニーズ
実際のデータを見ると、入院患者はここ 5 年間いずれも 25%が他病医院や施設からの紹介患者で、地域に根ざし信頼されている病院といえる。その他、平

図　実習レポートより抜粋

④ 4 年生臨床実習入門プログラム

4 年生臨床実習入門プログラムの企画、作成を行いました。また、プログラム内の採血実習、医療面接実習を担当しました。

⑤共用OSCE（客観的臨床能力試験）、卒業 OSCE 等 OSCE 関連業務

4 年生共用 OSCE 実施本部および医療面接 OSCE 評価者や模擬患者対応を担当しました。また、6 年生卒業 OSCE の企画および実施を担当し、将来的にはアドバンスト OSCE へと発展させるべく検討中です。その他 OSCE 医療面接模擬患者標準化に関するワークショップへの出席、OSCE 評価機構講習会受講、研修医 OSCE の企画など OSCE 関連業務を担当しました。

⑥1 年生医療行動学

医学科 1 年生 8 名に対して医療行動学を実施しました。外来患者の動線をたどり患者の立場を体験した後に、医療のあるべき論をディスカッションしました。

（ウ）ふるさと枠学生の教育

①地域医療研究会（ふるさと枠セミナー）

毎週水曜日、昼食をとりながらふるさと枠全員でミーティングをしています。具体的には各種連絡事項の伝達、実習の準備、医療面接の演習、基本診察の演習などを行っています。昨年度は 2 週間に 1 回行っていましたが、本年度は学生側の希望により毎週行いました。このような活動を通して、ふるさと枠学生の間の仲間意識の醸成、アイデンティティーの確立、将来への不安解消やモチベーション維持につながるよう心がけています。尚、本研究会は地域医療に興味があるすべての学生に開放しており、ふるさと枠以外からの参加者もいます。

②夏季実習（地域医療セミナー）

本講座、広島県、（財）広島県地域保健医療推進機構、広島県国民健康保険診療施設協議会の共催で、平成23年 8 月17日、18日、県内中山間地の医療機関12カ所で泊まり込みの実習を行いました。本学ふるさと枠学生、自治医科大学学生、他大学所属の広島県奨学生など48名が参加しました。以下のようなコースを設けました。

【Ａコース】中山間地域での診療を学ぶ
○吉和診療所（４名）
（１日目）訪問診療見学／（２日目）外来診療見学
○雄鹿原診療所（５名）
（１日目）訪問診療見学／（２日目）外来診療見学
○大和診療所（３名）
（１日目）訪問診療見学／（２日目）外来診療見学
○甲奴診療所（５名）
（１日目）地区の紹介、討論／（２日目）外来診療見学
○総領診療所（４名）
（１日目）庄原市長との懇談、先輩医師の講演／（２日目）外来診療見学

【Ｂコース】島嶼部での診療を学ぶ
○越智医院（４名）
（１日目）訪問診療見学／（２日目）外来診療見学
○蒲刈診療所（３名）
（１日目）訪問診療見学／（２日目）外来診療見学
○円山医院（４名）
（１日目）救急艇の見学、町職員の講演／（２日目）外来診療見学

【Ｃコース】病院での診療を学ぶ
○ＪＡ広島総合病院（４名）
　（１日目）施設見学、市職員の講演／（２日目午前）外来診療見学
○公立みつぎ総合病院（４名）
　（１日目）地域包括ケアの見学／（２日目）外来診療見学
○神石高原町立病院（４名）
　（１日目）訪問診療見学、「病院を守る会」による講演／（２日目）外来診療見学
○庄原赤十字病院（４名）
　（１日目）庄原市長との懇談、先輩医師の講演／（２日目）外来診療見学

このように３～５名ごとに分かれて各医療機関で実習を行いました。２日目の最後は広島大学に集合してワークショップを行い、学んだことを共有しました。実習後の評価の結果と、新聞報道の内容は巻末の添付資料をご覧ください。学生の報告書等は別冊の実習報告書に掲載しています。

③海外研修

海外の地域医療について見聞を広めてもらうことを目的とし、平成23年８月22日から平成23年８月28日、４名のふるさと枠学生を引率してオーストラリアを訪問いたしました。オーストラリアは広大な国土を持ち､地域医療教育や地域医療のシステム化に関して多くの先進的な取り組みを行っている国です。フリンダース大学はオーストラリアで最も早くから本格的な地域医療教育を取り入れた大学であり、またその優れた成果は国際的に高く評価されています。本実習ではこのフリンダース大学およびへき地にあるその関連医療機関を訪問し、オーストラリアの地域医療にじかに触れ、地域医療教育の現状について理解を深めました。スケジュールは以下のとおりです。

８／22　広島駅集合。関西国際空港より出国。

８／23　アデレード到着

８／24　アデレードのフリンダース大学医学部メインキャンパスにて Paul Worley 医学部長と面談。オーストラリアの地域医療の現状、および同大学が20年以上前から取り組んでいる地域医療教育について説明を受ける。レンマーク市に移動。

８／25　レンマーク市にあるフリンダース大学 Rural Clinical School（へき地キャンパス）において、同大学の Jennene Greenhill 教授から地域医療教育の詳細について説明を受ける。医学部３年生のチュートリアルを視察。教員および医学生と昼食会参加。近隣にある Berri Hospital 視察。救急隊訪問。予防医療サービス視察。Greenhill 教授、レンマーク市長およびレンマーク市ライオンズクラブ会長と夕食会。

８／26　Barmera Medical Clinic 視察。Berri Hospital にてGP（家庭医）の Dr Rohan Williams と昼

食会。アデレードに移動。
8／27　アデレードより出国
8／28　関西国際空港到着。広島駅で解散。

④冬合宿

本講座と（財）広島県地域保健医療推進機構の共催で、平成24年１月７日、８日、神石高原町の神石高原ホテルで一泊の合宿を行いました。参加者は本学ふるさと枠学生、本学一般学生、自治医科大学学生の計40名でした。以下の内容を実習しました。

○地域医療に役立つ疫学（講義と演習２題）
○シネメデュケーション（映画「ディアドクター」を題材に医療問題を討論）
○Basic Life Support（BLS）の演習（HALS（Hiroshima Activities for Life Support）のメンバーによる指導）
○新幹線の急病人（総合診療科横林先生によるロールプレイング）
○神石高原町立病院見学

実習の評価は巻末の添付資料をご覧ください。

⑤春季実習

春季休暇中に、ふるさと枠学生および一般枠希望学生に対して春季実習を行いました。計14名が１～３名ずつ中山間地域の７施設を訪問し、原則１泊２日の実習をさせていただきました。施設ごとに特徴的なプログラムを作成していただきました。（ご協力いただいた施設：尾道市立瀬戸田診療所、安芸太田病院、公立みつぎ総合病院、公立世羅中央病院、甲奴診療所、広島西医療センター、大和診療所）

（エ）第３回地域医療総合診療懇話会

平成23年７月９日に第３回総合診療・地域医療懇話会を広仁会館において開催しました。45名弱の方々に出席していただきました。県立広島病院総合診療科の岡本、広沢両先生より困難症例を提示していただき症例検討をした後、総合診療科の溝岡講師より「より良い指導医のあり方」という演題で講演していただきました。また、地域医療実習、地域医療研修、地域医療セミナー等地域医療教育に関するネットワークの設置に関して皆さんの意見を伺い、賛同していただきました。

（オ）第４回地域医療総合診療懇話会

第４回は広島県、（財）広島県地域保健医療推進機構との共催で、平成23年12月11日にシェラトンホテル広島において、福井県おおい町名田庄診療所の中村伸一先生をお招きして「地域に“寄りそ医”20年　～地域住民と診療所医師の強くて温かい絆の物語～」という演題で講演していただきました。NHK「プロフェッショナル　仕事の流儀」にも出演された中村先生の心温まるお話に、一般県民を含む130名以上の参加者が耳を傾けました。ひとつの地域で医師として20年やっていくことの重み、その喜びと苦悩が滲み出る講演でした。

（カ）地域医療学講演会

2012年２月14日17時から広島大学医学部において地域医療学講演会を催しました。講演者はオーストラリア La Trobe 大学地域医療学部長の Jane Farmer 教授。演題は「オーストラリアとスコットランドのへき地医療」「へき地における医療者主導の社会起業」の２題でした。

広大な国土を持つオーストラリアと、島国であるスコットランド。それぞれのへき地医療の類似点、相違点を分かりやすく説明してもらいました。続いて社会起業の話がありました。社会起業というのは、ボランティア、NPO 活動、企業活動等によって地域社会を活性化することを意味します。平たく言うと「まちづくり」です。Farmer 教授が Social Science & Medicine 等に発表された研究をもとに、英国とオーストラリアのへき地において、医療者が主体となって社会起業を展開した事例の紹介がありました。

講演後は吉栖医学部長をはじめ、参加者全員から質問があり、活発な議論がありました。

（キ）その他

①地域医療実習連絡会議

５年生地域医療実習およびアドバンスト地域医療実習の協力施設に出席していただき、平成24年３月に地域医療実習連絡会議を行いました。各施設の１年間の報告とともに、学生からの逆評価やアンケート結果を分析し、今後の課題を検討しました。来年度に関しては、学生に対して全施設において、高齢者総合的機能評価をさせてみよう、といったような目標が設定されました。また、各病院長の評価に基づいて学生の優秀実習レポート賞を決定しました。優秀レポート学生には賞品を授与し、レポートは公表する予定です。なお、本会議は広島県地域保健医療推進機構による若手医師等育成支援事業の助成金をいただき実施しました。（ご出席いただいた施設：庄原赤十字病院、安芸太田病院、神石高原町立病院、公立世羅中央病院、ＪＡ吉田総合病院、ＪＡ尾道総合病院、府中北市民病院）

②全国地域医療教育協議会

地域医療臨床実習の実施を求めた「医学教育モデルコアカリキュラム」の改訂、1300名を超える地域枠入学者、地域医療再生計画予算措置に関連した地域医療関連寄附講座の設置などにより全国的に地域医療教育の機運が高まっています。それを受けて平成23年７月に地域医療教育の向上、普及、研究を目的として全国地域医療教育協議会が設置されました。現在68大学が加盟しています。竹内は発起人に名を連ね監事を拝命しています。

③医学教育学会シンポジウム

第23回日本医学教育学会大会が広島の地において吉栖大会長の下で開催され「地域医療教育の新たな展開」と題したシンポジウムを企画しました。卒前地域医療教育のあり方、キャリアプラン構築や支援の方法など地域枠学生にまつわる諸問題を国内外のエビデンスも交えて議論しました。竹内が座長を、松本がシンポジストを務めました。

④学外講義

帝京大学医学部（東京都板橋区）４年生の地域医療学講義（12回シリーズ）のうち１回を松本が担当しました（平成23年10月27日「世界の地域医療」）。プライマリ・ケアを志す学生が多く、講義後も活発な質問や議論がありました。参加者は約100名。

3. システム作り／地域医療支援

（ア）広島県地域保健医療推進機構（以下、推進機構）

推進機構は、医師確保や配置調整、人材育成などを一体的総合的に実施する財団法人として平成23年７月に設置されました。推進機構が開催する地域医療推進ワーキンググループ会議、若手医師等育成支援事業選考委員会、広島県へき地医療支援機構運営委員会などの委員を務め、推進機構とは常に緊密な連携をしています。

（イ）ふるさと枠運営

広島県の支援のもと、学内におけるふるさと枠運営拠点としての活動を行いました。高校生向けのパンフレット作成（本冊子の添付資料）や高等学校を訪問しての説明会などを行いました。入試の倍率は４倍を維持しており、これは義務年限を伴う地域枠推薦入試としては全国トップクラスの倍率です。

①学校訪問

酒井副学部長とともに平成23年10月25日尾道北高校を訪問し、ふるさと枠および AO 入試に関する説明会を行いました。また、平成23年10月８日ふるさと枠学生数名とともに庄原グランドホテルで開催された「中山間地における医療体制についての意見交換会」に出席し、庄原格致高等学校学生および教師、庄原赤十字病院職員とともに意見交換およびふるさと枠に関する説明をしました。

②パンフレット改訂

「ふるさと枠のご案内」の改訂を行い、キャリアプランをさらに判り易くしました。

ふるさと枠広島県コース入試倍率の推移

（ウ）診療支援

５年生の地域医療実習受け入れ機関である庄原赤十字病院、神石高原町立病院、安芸太田病院、公立世羅中央病院の外来診療の応援を週1～２回行いました（外来実習指導を兼ねて）。また当直医不足である神石高原町立病院（月４回程度）の夜間当直支援も行いました。

（エ）藝州北部ヘルスケアネットワーク

平成21年より芸北地域等の医療支援を目的とした研修会が安佐市民病院土手慶五循環器内科主任部長を代表世話人として実施されてきましたが、推進機構の若手医師等育成支援事業助成開始を機に、会則を改め、竹内が顧問として企画に参加することになりました。

（オ）広島県地域保健対策協議会

地域医療従事者対策専門委員会（竹内、松本）、地域ケア促進専門委員会（竹内）、医療を支える環境づくり特別委員会（竹内）の委員として協議に参画しました。

（カ）中四国地域医療フォーラム

中国四国の地域医療関連講座の先生方とは機会あるごとに情報交換することにしています。平成24年３月18日第２回中国四国地域医療フォーラム（第１回は昨年広島大学が開催）が岡山大学主催で開催され、広島大学の岡山県枠ふるさと枠学生、推進機構スタッフとともに参加しました。継続的なフォーラムの開催と県を超えた学生交流の促進に関して合意しました。

4. 研究

昨年度講座開設と同時に立ち上げた研究計画を本年度は実行に移しました。結果として以下のような進展が得られました。

（ア）広島県の人工透析患者の地理的分布とアクセス格差の研究

当講座、公衆衛生学講座、県立広島病院、県内各市村が共同し、県内の人工透析患者全数の地理的分布を調べ、地理情報システム（GIS）を用いて通院時間にどの程度地域間格差が存在しているかを明らかにする研究を行っております。本年度にデータ収集と解析作業が終了し、来年度２本の論文が完成予定です（１本アクセプト済：2012年出版）。

図　広島県内の透析患者と透析施設の分布

（イ）広島県の医師の地理的分布に関する研究

広島県内の医師の地理的分布を時系列で調べ、医師分布を規定している諸因子を明らかにしました。特に距離が医師の移動に与える影響、および県全体の医師不足が医師の移動に与える影響を、地理情報システムを用いた詳細な分析および長崎県との比較によって明らかにしました。本年度２本の論文が完成しました（アクセプト済：2012年出版）。

Flow of physicians between urban and rural areas

		2002			
		Hiroshima		Nagasaki	
		Rural	Urban	Rural	Urban
2008	Rural	1061	228	836	175
		81.2%	7.6%[a]	85.4%	11.6%[a]
	Urban	245	2754	143	1329
		18.8%[b]	92.4%	14.6%[b]	88.4%
	Total	1306	2982	979	1504
		100%	100%	100%	100%

a: P value for difference <0.001
b: P value for difference p=0.037

図　都市部⇔へき地の医師移動に関する広島県と長崎県の比較

（ウ）ランセット日本特集号

国民皆保険達成50周年を記念して『ランセット』誌で発表された論文「Japanese universal health coverage: evolution, achievements, and challenges」の分析チームに当講座が参加し、皆保険制度が社会に与えた影響の分析を担当いたしました。『ランセット』誌の200年近い歴史において、先進国について特集論文が掲載されるのは初めてです。また、同誌に当講座が執筆した地域医療教育に関するレターも掲載されました。

左図　Lancet 2011; 378: 1106-15より。国民皆保険達成前後での患者受療率の推移。Elsevier社より許可を得て掲載
右図　Lancet. 2011 378: e17より。地域医療教育に関する提言。Elsevier社より許可を得て掲載

（エ）全国地域枠学生コホート研究

全国地域医療教育協議会の地域枠コホート研究本部（当講座、鹿児島大学離島へき地医療人育成センター、長崎大学離島・へき地医療学講座の3講座で編成）として、全国の大学医学部・医科大学に所属する地域枠学生の進路を追跡するコホート研究を立ち上げ、実施に向けて省庁等と協議を進めています。

（オ）その他研究

米国の循環器専門医の地理的偏在に関する国際研究チームに加わり、成果が論文として出版されました。また広島大学病院の COPD 患者の疫学研究を進めています。

5. 2011年研究業績一覧

■ 原著論文

1．Ikegami, N., Yoo, B., Hashimoto, H., **Matsumoto, M.**, Ogata, H., Babazono, A., Watanabe, R., Shibuya, K., Yang, B., Reich, M, and Kobayashi, Y. Japanese universal health coverage: evolution, achievements, and challenges. ***The Lancet*** 378（9796）: 1106-1115, 2011.

2．Aneja, S., Ross, JS., Wang, YF., **Matsumoto, M.**, Rodgers, GP., Bernheim, SM., Rathore, SS., and Krumholz, HM Uneven distribution of cardiologists persists, especially in rural areas. ***Health Affairs*** 30（12）: 2301-2309, 2011

■ エディトリアル

1．**Matsumoto M**, Inoue K: Earthquake, tsunami, radiation leak, and crisis in rural health in Japan. ***Rural and Remote Health*** 11: 1759, 2011（online）.

■ レター

1．**Matsumoto, M.**, Inoue, K., and **Takeuchi, K.** Quality of care in Japan: an additional strategy. ***The Lancet*** 378（9807）:e17, 2011

■ 和文総説

1．**竹内啓祐**　病院総合診療科における心療内科．日本心療内科学会誌15（2）：75, 2011

2．**竹内啓祐**　広島県の地域医療の課題．広島県内科会会誌第12号：82, 2011

3．**松本正俊**　医師の偏在に関する国際比較研究（研究ノート）　医療と社会 21：223-233, 2011

■ 学会発表

1．**竹内啓祐**「大学病院総合診療外来おける COPD 疫学調査」第 3 回日本病院総合診療．医学会学術総会（平成23年 9 月 9 日：東邦大学医療センター大森病院）

2．**松本正俊**、横林賢一、**竹内啓祐**、田妻　進「総合医と研究について：総合医はどこまでやれるのか？」　第 3 回日本病院総合診療医学会　東京2011年

■ 招待講演等

1．**竹内啓祐**　シンポジウム「地域医療教育の新たな展開」企画／座長、第43回日本医学教育学会大会（平成23年 7 月23日：広島国際会議場）

2．**竹内啓祐**　「地域で総合医を育てる」　第10回藝州ヘルスケアネットワーク（平成23年10月21日：広島市立安佐市民病院）

3．**竹内啓祐**　「総合診療科」について」　広島記念病院地域医療従事者研修会（平成23年11月24日：広島記念病院）

4．**竹内啓祐**　「広島大学地域医療システム学講座の現状と課題」地域医療マネージメント研究会（平成23年12月15日：鳥取大学医学部）

5．**竹内啓祐**　シンポジウム「ご存じですか、在宅療養における訪問看護の役割」企画／座長、市民公開講座（平成24年１月22日：中国新聞ホール）
6．**竹内啓祐**　「生口島地域ケアネットワークづくり」平成23年度地域ケアフォーラム（平成24年３月20日：尾道市瀬戸田福祉保健センター）
7．**松本正俊**　「家庭医のための研究入門」（平成23年10月15日）第３回中国四国ブロック家庭医療後期研修プログラム交流会
8．**松本正俊**　「地域医療教育のエビデンス」（平成23年7月22日）第43回日本医学教育学会シンポジウム「地域医療教育の新たな展開」

■ 競争的外部資金

1．2011年 Research Grant, Great Britain Sasakawa Foundation 7000英ポンド（代表研究者：松本正俊）
2．2011年文部科学研究費補助金（若手Ｂ） 208万円（代表研究者：松本正俊）
3．平成23年度サタケ教育研究助成　30万円（代表研究者：松本正俊）

■ 学術誌編集

1．*Rural and Remote Health* のアジア地区編集長を松本が務め、投稿論文90本の採否決定を行った。

■ 受賞

1．「修道医会第13回学術奨励賞 」2011年７月（松本）
2．「広島大学医学部 Teacher of the Year 2011」2012年３月（松本）

6. 添付資料

（ア）新聞記事

■ 夏季実習（地域医療セミナー）

地域医療 医学生学ぶ

広島県セミナー　診療所など見学

佐藤所長（左端）から地域医療について学ぶ学生（三次市の甲奴診療所）

地域医療を志す医学生対象のセミナーが17日、広島県内の12医療機関で始まった。県や県地域保健医療推進機構などが主催し、広島大や自治医科大（栃木県）などの医学生48人が参加した。セミナーは毎年実施。18日も各地で研修する。

学生は中山間地域や島しょ部など3コースに分かれ、各地で医師の診療や施設を見学するなどした。三次市甲奴町の市国民健康保険甲奴診療所では、広島大と愛媛大の学生計5人が研修。佐藤友紀所長(31)から診療所の役割や町の現状を聞いた。

中山間地域である同町の人口は7月末現在で2845人、高齢化率は41・3%。1人で担当する佐藤所長は「診療所はベンチャー企業に似ている。地域のニーズに応じ、幅広い知識や柔軟性、即効性が必要」と強調した。

「行政や住民と協力して進めるのが地域医療。良くなれば住みやすさにもつながり、将来性のあるまちづくりにも貢献できる」と説明した。

広島県北広島町出身の広島大3年板倉文乃さん(20)は「医療を通じたまちづくりという視点を、将来実践していきたい」と抱負を話していた。（山崎亮）

中国新聞　2011．8．18（木）

離島・山間部 寄り添う医療

広大医学部生ら50人学ぶ

広島大学医学部に「ふるさと枠」で入学した学生ら約50人が参加する「地域医療セミナー」が17日から2日間の日程で開かれた。離島や山間部の12医療機関を訪れ、地域医療の現状を学んだ。

ふるさと枠は、卒業後の一定期間、医師不足の地域や診療科で働く条件をつけ、奨学金を支給する推薦入試制度。17日は同学部の2、3年生計5人が、北広島町荒神原の雄鹿原診療所を訪問した。

出迎えた医師の東條環樹所長(39)は医療や福祉、保健の専門スタッフが連携して患者や家族らを支える「地域包括ケア」の大切さを説明。家で暮らす末期患者の看取りについても「一朝一夕にはいかないが、最期まで住み慣れた家で過ごしたいという願いをかなえるための、総合的な態勢が回り始めた」と話した。

その後は、施設＝写真＝や在宅の患者を訪問。3年の宮本亮さん(20)は「患者の家族と、今後を一緒に考える医師の姿に、結びつきの深さを感じた」と話した。（錦光山雅子）

朝日新聞　2011．8．23（火）

■ 中山間地における医療体制についての意見交換会

医師と高校生ら交流会

庄原格致高OBら　人材発掘狙う

庄原格致高生が医療関係者の話を聞いた交流会

地域医療を担う人材の不足が懸念されている庄原市で、同市の庄原格致高の生徒が医療関係者から直接、話を聞く交流会があった。

将来の庄原の医療現場を担う人材を発掘しようと、同校出身で内科医院を川北町で開業する兒玉節さん(62)たちが、市内のホテルで開いた。

医療従事者を目指す同校生徒23人と、広島大医学部の学生、三次看護専門学校生、現役の医師、看護師たち計50人が参加した。

後輩向けの体験発表では、庄原格致高卒業の看護専門学校生が「実習で相手の気持ちを考えられる人になることが医療を志すうえで大事と学んだ」と強調。ゲストとして出席した広島大医学部の竹内啓祐教授(58)＝地域医療システム学＝は「医療は人に尽くせる素晴らしい職業。将来はぜひ、庄原に戻ってきて働いてほしい」と訴えた。

六つのテーブルに分かれ、食事をしながら意見交換もした。放射線技師を目指している同校3年藤田咲季さん(17)＝山内町＝は「庄原で働こうと思う人が増えそう。地元で働くことが大事だと思った」と話していた。（森下敬）

中国新聞　2011．10．12（水）